岩手県総合計画審議会
令和２年度第５回県民の幸福感に関する分析部会

（開催日時）令和２年 10 月 28 日（水）14：30～16：30
（開催場所）エスポワールいわて　３階　特別ホール

１　開　会
２　議　題
（１）令和２年度　年次レポート（案）について
（２）県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて
（３）「幸福について考えるワークショップ」について
（４）その他
３　閉　会

出席委員等
吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、谷藤邦基委員、
Tee Kian Heng（ティー・キャンヘーン）委員、山田佳奈委員、
和川央岩手県立大学特任准教授
欠席委員等
竹村祥子委員、広井良典オブザーバー

１　開　会

○池田政策企画課主任主査　それでは、御案内の時間になりましたので、ただいまから第５回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画部政策企画課の池田と申します。よろしくお願いいたします。

大変申し訳ございませんが、当課照井総括課長につきましては、別件用務がございまして、不在とさせていただきたいと思いますし、北島評価課長につきましても途中で一時退席をさせていただきたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、暫時私の方で司会進行をさせていただきます。

本日は、竹村委員及び広井アドバイザーが御欠席ということで、運営要領第６条第２項に基づきまして、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立している旨御報告申し上げます。

それでは、北島評価課長より御挨拶申し上げます。

○北島政策企画課評価課長　評価課長の北島です。本日はお忙しいところ御出席いただきまして、ありがとうございます。

評価担当は、今新しい県民計画（2019～2028）の４年間のアクションプランの政策評価を行っています。具体的に言いますと、10 の政策分野ごとにいわて幸福関連指標を設定し、その達成状況に加えて、社会経済情勢ですとか、県民の幸福実感、県民の意識、そういっ

たものを踏まえて総合的に評価しているところです。その意識につきましては、この部会でこれまで４回に渡り御議論いただきました、平成 31 年調査と令和２年調査で分野別実感が低下した要因ですとか、平成 28 年から令和２年までの分野別実感が一貫して低値で推移している要因、そういったものを踏まえて、政策評価の作業の真っ最中、もう少しで仕上がりを迎えるというところまで来ております。

本日の部会ですけれども、分析部会で分析した結果を年次レポートとして取りまとめておりますけれども、これを本日最終確認していただいて、11 月に岩手県の総合計画審議会がございますので、その際に吉野部会長から年次レポートの概要について御報告いただくという段取りになっております。

それから、本日につきましては、年次レポートのほか、来年１月、２月に実施する意識調査の補足調査も設問の項目の見直し等、あるいは幸福について考えるワークショップ、今年度はコロナの関係で開催できなかったのですけれども、来年実施したいと考えていまして、その進め方について皆さんから忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほど池田から説明がありましたとおり、政策評価の結果を来年度の政策にどう生かしていくかという検討の会議があって、私も照井総括課長と同様出席いたしますので、一旦中座しますが、また戻ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

○池田政策企画課主任主査　それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。お手元の資料に、資料１から４、資料１につきましては資料１―１が年次レポート（案）でございまして、１―２が概要版ということになってございます。そちらをお手元に配付させていただいているほか、参考資料といたしまして、幸福について考えるワークショップの手引きと、あと県民計画の概要版につきましても参考資料としてお手元に配付させていただいているところでございます。もし資料の不足等ございます場合については、お知らせいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

２　議　題

（１）令和２年度　年次レポート（案）について

○池田政策企画課主任主査　それでは、議事に入りたいと思います。

運営要領第４条第４項の規定により、部会の議長は部会長が務めることとされておりますので、以降の進行につきましては、部会長よりよろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　それでは、今お話ありましたとおり、本日第５回目の分析部会を始めたいと思います。資料の確認は終わっておりますので、早速議事に入ります。

議題は、本日４件ありますが、まずその１の令和２年度の年次レポート（案）について、前回指摘した内容について修正がありましたので、それについて事務局より御説明いただきたいと思います。早速お願いします。

○池田政策企画課主任主査　それでは、私の方から御説明をさせていただきます。座って御説明をさせていただきます。

それでは最初に、資料１―１につきまして、前回まで御覧いただいておりました年次レポート（案）については、前回の部会におきまして御意見を頂戴した部分について修正いたしましたので、お手元の資料を御覧いただければと思います。修正点につきましては、様々ございますけれども、修正点を赤字で表記させていただいております。

主な修正点について御説明をさせていただきますと、２ページのところ、まず県民意識調査と補足調査が分かりにくいというところがございましたので、そこの区分がきちんと分かるように、県民意識調査という文言を入れてございます。今後出てくる各図表におきましても、表の題名のところに県民意識調査を分かるように表記させていただいているほか、こちらにつきまして、前回までは「一貫して低値で推移している」というところについて記載していたのですけれども、高値の部分につきましても記載を追加させていただいているというものでございます。

また、表２のところですけれども、県民意識調査において、幸福実感に係る調査につきましては、平成 27 年度から実施してございますので、そちらが分かるようにということと、あとアクションプランの計画期間でございます令和４年以降につきましても、これらを現時点においては継続していくという考え方でいるということが分かるような形で修正をさせていただいているというものでございます。

次に、12 ページ御覧いただいてよろしいでしょうか。12 ページの表、以前まではこの表を入れているだけでございましたけれども、こちらについて前書きということで、こちらの表はどういった趣旨で入れているのかということで、この平均値の状況について、基準年である平成 31 年度から今年の令和２年度を比較したもので示していますということで、調査結果の概要としてお示しをさせていただいているというものでございますし、おめくりいただきまして、14 ページにつきましては、調査開始当初から一貫して低値で推移しているものと高値で推移しているものを表として示しているということの記載を追加させていただいているというものでございます。

以降につきましては、先ほどお話ししたように、県民意識調査と幸福調査の区分が分かるように記載を修正させていただいているということで、お示しをさせていただいてございますので、事前にある程度御覧いただいていると思いますけれども、後でも構いませんので、御覧いただいて、御意見があれば頂戴できればなと考えているところでございます。

このような修正を行いまして、概要版の（案）というものを私どもで今回作成させていただいております。こちらの内容につきましても、併せて御意見を頂戴できればと思っております。こちらの作成につきましては、基本的に年次レポートからの抜粋という形で整理をさせていただいておりまして、１番として分析目的ということで、県民意識を反映させながら、政策を総合的に評価するということで、マネジメントサイクルを確実に機能させるための指標の一つとして、幸福実感というものを活用するという中で、今回は分野別実感の変動要因等について分析を行っていただいたということを記載してございます。

２番の分析対象といたしましては、県民意識調査と補足調査のそれぞれの内容について示させていただいた上で、分析結果を整理させていただいてございます。

主観的幸福感につきましては、こちらにお示ししているとおり、主観的幸福感の推移の状況等を示して、整理をさせていただいておりますほか、おめくりいただきますと、そちらには主観的幸福感に関連する今回の 12 の分野別実感の分析結果をお示しさせていただ

いております。上昇が１分野、横ばいが５分野、低下が６分野ということで、内訳はこのようになっているということを示すとともに、低下した要因ということで、推測させるものについて３つほどお示しをさせていただいているということでございます。

最後に、分野別実感が一貫して低値で推移している属性とその要因につきましても記載させていただいております。こちらにつきましても同様の整理をさせていただいて、次のページまで、４ページまでのところで整理をさせていただいているというものでございます。

最後に、参考ということで、本部会の委員の皆様の名簿と、あとは今年の開催状況につきましてお示しをさせていただいております。開催状況につきまして、これにつきましては先ほど評価課長よりお話がございましたけれども、11 月に総合計画審議会で御説明をさせていただいた上で、公表というような運びにさせていただきたいと考えております。

事務局からは以上となります。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。

それでは、今の御説明に対して、資料１―１、１―２、どちらでもいいですけれども、御質問があればお願いしたいと思います。

○池田政策企画課主任主査　すみません。説明漏れが１つございました。

前回谷藤委員から、年次レポートの中の表、ページ数的には８ページのところにございます調査結果の概要というところで、表の並びが左側の「感じる」から、右に向かって「感じない」という整理になってございました。それがお手元にお配りしてございます資料編のグラフになりますと、それが逆で「感じない」という方が先に来ているということがございます。例えば資料７などを開いていただくとお分かりになるかもしれないのですが、前回までこの表逆になっていまして、「あまり感じない」から右に向かって「感じる」という形になってございましたので、そこの部分は全部整理し直しまして、今回改めてお配りをさせていただいております。

以上でございます。

○吉野英岐部会長　補足でありがとうございました。今のも含めて御質問ありますか。大体前回の委員会で指摘されたことは、それぞれ直してあるということですね。

○谷藤邦基委員　大分内容、表現形式ともに読みやすくなっているなと思っておりまして、そういう意味では内容とか表現形式に関しては、これで取りあえず十分ではないかなと思っています。

その上で、少し体裁の問題だけ、若干こうされてはどうですかというところなのですが、資料１―１に関して言うと、３ページのところで１．１、調査目的及び対象等で①から⑧まで項目を挙げてあるのですが、ここの項目はゴシックにされた方がいいのではないか。というのは、７ページ見ていただくとゴシックになっているのです。ですので、そこは統一された方がよろしいなと。だから、本当に体裁の問題です。

４ページ、５ページ、６ページは、それぞれ主観的幸福感とか、分野別実感とかとある

のですが、ここもゴシックにされた方が見やすくなるのではないかと。見出しというか、項目のところです。

○吉野英岐部会長　１行目ですかね。

○谷藤邦基委員　１行目のところです。大分後ろの方へ行くと、そのぐらいの項目はゴシックで項目立てしているのでということもあります。

それから、本当に細かいのですが、９ページのところの２行目の最後のところです。「実感が低下した人の回」でかぎ括弧閉じになっているのですけれども。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。

○谷藤邦基委員　それから、読みやすさという観点で、15 ページのところなのですが、３行目、①令和２年県民意識調査と前年調査との比較ということで、「(図１及び図２参照)」ということで、参照すべき図が示してあるのですが、これがどこにあるのかというページ数も併せて示した方が分かりやすいなと。４ページの図１、図２とか、それ下の図５とか、図４も同様です。

ちなみに、表７はすぐ下にあるので、同じページの見える範囲にあれば特に示す必要はないのですが、見えないところにあるものは、どこにあるのかというのが書いてあると分かりやすいかなと。

○吉野英岐部会長　そうですね。

○谷藤邦基委員　同様の観点で言うと、18 ページの（表４参照）というのが下の方に赤字であるのですが、ここも９ページとかというのがうまく入っていると分かりやすいかなと。

あとは同様にして、26 ページのところで、表 17 のすぐのところですけれども、「(表３参照)」というのがあるのですが、ここも８ページとか書いてあると、多分探すとき見やすいだろうということです。ですので、全部体裁に係る問題です。他は、もう私はこれで十分だと思っていますので。お疲れさまでした。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。いかがでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　では、そのように修正させていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。

○谷藤邦基委員　それから、表１―２について１点だけ。

２ページの一番下のところなのですけれども、「自然のゆたかさ」でア、イ、ウの下に（継続して全属性で４点を超えている）という表現があるのですが、恐らくこの概要だけ見たときに、この４点という意味合いがぴんと来ないのではないかなという気がしまして、例

えば継続して全属性で４点を超え高水準であるとか、何かそんな感じで、これは高いのだよということを一言入れてあげた方が分かりやすいのではないかなと、こう思った次第です。
　以上です。

○吉野英岐部会長　表というか、資料１―２の方ですね、概要版。

○池田政策企画課主任主査　表現のところでは、４点を超えて高値で推移しているという、中の表現に近い形で整理をさせていただきたいと。

○谷藤邦基委員　そうですね、それでいいかと思います。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。
　そのほか御質問いかがですか。
　山田先生、どうぞ。

○山田佳奈委員　私も同様でありまして、大変丁寧におまとめいただきましてありがとうございます。
　本当に体裁のところだけです。資料１―１の 12 ページの表５です。あくまでも体裁だけの話なのですが、表の上の方で、「主観的幸福感」から「心身の健康」ということで、分野別実感に入っていくので、「主観的幸福感」と「心身の健康」のところに、太線か何かで区切られると、より分かり易いかなという気がいたしました。その１点です。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。分かりましたか。

○池田政策企画課主任主査　それでは、そこの部分は二重線にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○吉野英岐部会長　若菜委員、お願いします。

○若菜千穂副部会長　概要版の資料１―２の方で、これを見る人の方が多いのかなと、思って改めて見ていて、１ページ目の一番下の図１と図２が、ちょこっと見て、あれ、何だろう、これ全然意味分からないなと思ったのが、図１がパーセンテージ、図２の方がポイントですか。その単位が抜けているのかなというのと、図のタイトルをもう少し変えてもいいのかなという。多分これだけぱっと見ると、図１と図２、タイトルなんかも似ているし、単位は入れてもらった方がいいかなというくらいです。

○吉野英岐部会長　いかがでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　分かりました。表現については、検討させていただきたいと

思います。

○若菜千穂副部会長　すみません。「マネジメントサイクル」は、私初めて言葉を聞いたのですけれども、概要版にぽんと、「マネジメントサイクルを確実に機能させていく」とあるのですけれども、県は最近こういう表現でしたか。

○池田政策企画課主任主査　このような表現を使わせていただいております。

○若菜千穂副部会長　分かりました。勉強させていただきました。マネジメントサイクル。

○吉野英岐部会長　ＰＤＣＡのことですか。

○和川特任准教授　少し古いかもしれませんね、言葉とすれば。

○若菜千穂副部会長　マネジメントサイクルが古いのですか。

○和川特任准教授　はい。

○若菜千穂副部会長　何か本編にも別にこの言葉使っているのであればわかるのですが、突然出てきたので。

○池田政策企画課主任主査　こちら、表現を考えます。確かにそうですね。

○吉野英岐部会長　本編には全然ない表現だということを御指摘されていると。

○池田政策企画課主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　本編にないのに、概要版にいきなり出て大丈夫かと。

○若菜千穂副部会長　いいのですけれども。

○吉野英岐部会長　では、そこは検討してください。
　そのほかいかがでしょうか。和川さん。

○和川特任准教授　まずは、お疲れさまでした。非常によくまとめていただいたなと思っています。
　概要版の方で、３点ございます。本編にも同様の記載があったのですけれども、概要版になった改めて読んでみたときに、３の（１）の丸の２個目なのですけれども、ゴシックの部分、「県全体の平均値は上昇して 3.48 となり、主観的幸福感としては横ばいに推移」という、この表現がぴんときづらいなと。要は、県の平均値は上昇して何点で、主観的幸

福感としては横ばいというところが、いま一つぴんとこなかったかなと私は感じたのです。皆さん、すごくすんなりくるというのであればよろしいかなというようには思うのですけれども。例えば県民意識調査のように、県全体何％でした（前年何点）とかというように、単純に事実だけ書いてしまうという手もあるのかなと思いました。この書き方、もう少し何か工夫ができるのであれば、なおいいかなと考えましたというのが１点になります。

２点目は、先ほどの若菜委員からのお話の続きなのですけれども、図１、図２、確かに分かりづらいのですけれども、私だったらということで、左側を（割合）、右側を（点数）というように書くと分かりやすいかなと思いましたというのが２つ目の点です。

最後、３つ目なのですけれども、前回の御意見があった上でこのような形になったというのを理解した上での発言なのですけれども、概要版には低下した分野や低値のことしか書いていないので、読んだときにすごくネガティブに感じました。どこかに、「こういう趣旨で今回は低下のものを重点的にやりました」とかというところを米印でいいので、そういったコメントがあると、そういう趣旨なのねというのが分かりやすいかなと感じましたというのが、以上３点になります。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。いかがでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　まず、前段の２点については、お話のとおり、修正をしたいと思っています。

３点目につきましては、実は我々も少し悩んだところです。上昇したところは、実はなかなか記載が難しいというところがあって、趣旨とすれば今回底上げのところをということでは考えたところではあるのですが、表現として、まさに御意見をいただきたいというところではあるのですけれども、ここの表現の仕方というか、入れ方のところ、今のような御意見を踏まえて米印の対応でいいのか、それとももっと違う表現にしたらいいのかという部分について、御意見を踏まえて修正を図っていきたいなと考えてございます。

○吉野英岐部会長　米印はどれですか。

○池田政策企画課主任主査　先ほど和川さんから御提示いただいたように、米印で今回のところについてはということで。

○吉野英岐部会長　それを入れるかどうか。

○池田政策企画課主任主査　という形で入れるのがいいのか、それとももっと違った表現で入れていくようなことを検討した方がいいのかということの部分でということでございます。

○吉野英岐部会長　低下した６分野のみ少し詳しく書いてあるわけですよね、概要版の方は。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。今回の分析の内容を踏まえて記載できるとなると、低下したところが今回力点を置いて分析をいただいたところでございますので、我々とすると、そういった上がっているところはいいわけではないのですけれども、まずは低下したところをいかに県民の実感を上げていくのかという視点で、今回の概要版の方は整理をさせていただいているということでございますが、ただある意味若干バランスを欠く部分があるというのであれば、記載の方向についてもどう書いていくのか。

今レポートの方で、例えば上昇したところの心身の健康の方、27 ページの辺りを見ていくと、なかなか記載が、ここで書いている低下の部分とトーンが大きく違っている部分ございますので、一律に、並列に並べるには難しいのかなと思っている次第です。27 ページの（１）、「心身の健康」の実感の①のイの大きな丸の２つ目のところです。前年調査との比較ということで、一応例示として挙げているのが睡眠、休養、仕事、学業、運動などの暮らしの時間配分などのところについては例示をさせていただいているところですけれども。

○吉野英岐部会長　確かに何で下降した部分しかやらないのかという素朴な疑問には答えておいた方がいいような気がしますね。本編にはあるのですけれども。

○池田政策企画課主任主査　では、そこの部分、表現を改めて検討させていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　今概要版の図１を見ると、これはスケールの単位がないのですね。

○池田政策企画課主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　10 から 60 と書いてあるのは、何の意味なのだということが書かれていないために、60 点と見えないわけでもないという。これはパーセントということですよね。

○池田政策企画課主任主査　はい。お話のとおりでございます。

○吉野英岐部会長　どこかにパーセントと入れておけばいいということですよね。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。入れさせていただきます。

○吉野英岐部会長　右は点ですよね。分かりました。それも補足してください。

そのほかいかがでしょうか。

では、私の方からは本当に余計なことですけれども、ティー先生のお名前はこれでいいのでしたか。ティー・キャン・ヘーン先生というのは、「キャン」と「ヘーン」の間に点に入るのでしたか。

○ティー・キャンヘーン委員　入らない。別にそれはそれで、そう区切っていますよという意味では、全然構いません。

○吉野英岐部会長　でも、キャンヘーンというのは、続いているのではないのでしたか。ミドルネームが「キャン」なのですか。

○ティー・キャンヘーン委員　いやいや、キャンヘーンは、「ティー」が名字で、「キャンヘーン」が名前という。

○池田政策企画課主任主査　失礼いたしました。

○吉野英岐部会長　それで、実はいろいろ昔の資料も見たら、全部点がついていて、ティー・キャン・ヘーンとなっているのですけれども、私の理解では今先生がおっしゃったとおり、「ティー」が名字で、「キャンヘーン」が名前、ファーストネームでいいのですかね。

○ティー・キャンヘーン委員　はい、そうです。

○吉野英岐部会長　そうすると、総計審に出す、あるいはこの報告書類は、やっぱりキャンヘーンはつなげて書いたらどうでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　すみません。そもそも論的な話で大変恐縮なのですが、英字表記に修正をさせていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　英字表記。英字で、点は抜くということ。

○池田政策企画課主任主査　ないです。

○吉野英岐部会長　「キャン」と「ヘーン」の間には。

○池田政策企画課主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　すみません。私の名前ではなくて、人の名前なので、私がとやかく言う筋合いではないのですが、少し気になったので、そこは英字で直してしまって、点を取るという方向で進めてください。

○ティー・キャンヘーン委員　すみません。

○吉野英岐部会長　こちらこそすみません。

それから、本編の表紙と概要版の表紙というかタイトルで、令和２年度の位置が、場所が違うのですけれども、どっちがいいのでしょうか。頭に入れるのか、年次レポートの前

に置くのか。どっちかにそろえておいた方がいいのではないかなとは思ったのですけれども。

○池田政策企画課主任主査　個人的な趣味でお話をさせていただくとすれば、年次レポートは分析部会にかかるのかなと思っているので、その前かなという気もするのですが、いかがでしょうか。すみません。全然こだわりがあるというわけではないので、むしろ概要版に合わせても特に支障ないかと思っています。

○吉野英岐部会長　一番経験豊かな谷藤委員、どっちでしょうか。

○谷藤邦基委員　私はあまり、どっちでもいいと思っています。だから、違っていても気には全然なりません。

○吉野英岐部会長　そうですか。確かに気にならないと言えば気にならないのですけれども、何か後で残ってしまうので、概要版というのはあくまで本編の概要なので、本編と表記が違うというのは、あまり好ましくないかなと思って。

○谷藤邦基委員　そういうことですと、そもそもこの分析部会自体の正式名称は、岩手県総合計画審議会から始まるのです。

○吉野英岐部会長　この発行者はそうなっておりますね、奥付。

○谷藤邦基委員　そうであれば、ここに岩手県総合計画審議会という枕言葉を本編の表紙にも入れた上で。

○吉野英岐部会長　そうですね。後々残るもの。

○池田政策企画課主任主査　分かりました。そう考えると、すみません、総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」令和２年度年次レポートという形で。

○吉野英岐部会長　この白抜きの方で。

○池田政策企画課主任主査　整理をさせていただきます。

○吉野英岐部会長　いかがでしょうか。この概要版の表記で統一させていただいて、本編もこのとおりのタイトルでよろしいですか。ありがとうございます。
　他も全てそうなっていないので、どうしようかなと思って聞いたのですけれども、公式に出すときは、ではやっぱり岩手県総合計画審議会の部会であるということも明記していただくということで進めてください。ありがとうございます。少しかっこよくなりますか、そうなると。

○谷藤邦基委員　重みがついて。

○吉野英岐部会長　何の部会だか分からないと言われたら、確かにそうですね。
　では、それで統一ということと、今のところは、月は○月となっておりますが、これは11月になりますか。

○池田政策企画課主任主査　はい。最終的には、親会である総合計画審議会、御報告をもって公表をさせていただきたいと考えてございますので、11月になります。

○吉野英岐部会長　11月の予定で御了解ください。
　では、形式的なことですが、私はタイトルと人名の件だけ少し気になりました。
　その他はよろしいでしょうか。
　それでは、修正点については、この後事務局で修正していただきまして、最後確認は委員長の方でさせていただくということでよろしいでしょうか。

　「異議なし」の声

○吉野英岐部会長　では、最後一任させていただく形になりますけれども、ちゃんと確認をした上で、最終版として総合計画審議会に上げていきたいと思います。
　先ほどちらっとありましたように、11月18日でしたか。

○池田政策企画課主任主査　17日。

○吉野英岐部会長　17日の総計審で、まず御報告をさせていただいた上で、その後公開になっていくというスケジュールになると思います。ありがとうございました。

（２）県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて

○吉野英岐部会長　それでは、第１の議題は以上にいたしまして、２つ目の県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについてに入りたいと思います。
　まず、事務局から御説明をお願いします。

○池田政策企画課主任主査　それでは、資料２の方で、県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについてということで、今年１月に実施いたしました内容について、今回まで分析をいただいてきたところですけれども、来年１月にも同様の調査を行おうというところでございますので、今年の内容等を踏まえながら、見直しについて事務局から御提案をさせていただきたいというものでございます。
　２の見直しの基本的考え方ということで、我々といたしましては、基本的にはこの調査を継続していくことで分析が可能になってくると考えてございますので、今年の調査内容

を踏襲したような形で、まずは行っていきたいとは考えてございます。ただ、社会経済情勢等を踏まえて、必要な見直しは必要だろうということで、今回検討をさせていただいたものでございます。

さらに申し上げますと、回答項目の削除ということについては、今回の調査結果を見ますと、回答はなかった項目がないということもございますので、削除というのは原則として行わないという形で考えていきたいとは考えております。そういったような基本姿勢を踏まえながら、検討をさせていただいてきたというところでございます。

１つといたしましては、新型コロナウイルス感染症という今年かなり大きな状況がございます。この生活の変化に伴った把握というものが必要になってくるのではないかということが１つのポイントとなっております。

もう一つは、今回初めて県民計画の評価を今年度から実施しているというところでございますけれども、そういったものを使っていく中で少し見直しをしていったらどうだろうかというような部分について検討したことと、あと今年１月に調査した中で、設問がなかなか多いのではないかというような御意見も一部聞こえてきているところもございますので、そういったような部分も含めて見直しというものを今回させていただいたというものでございます。

おめくりいただきまして、まずは新型コロナウイルス感染症の見直しということで検討をさせていただいてございます。検討のポイントといたしましては、１つの考え方としては、分野別実感の回答理由にそういった設問を追加するのか、もしくは変更するのかというような考え方があります。

もう一つは、回答理由に係る設問は変更しないのだけれども、どのように新型コロナウイルス感染症の影響、それを把握していくのかというような点で、我々の方で検討をさせていただいたというものでございます。

対応案といたしましては、基本的には調査の継続性ということがございますし、あと昨年本調査を設計していただく中で､県民の皆様が実感を感じたときの状態を把握するには、現在の項目で適切に把握されるような内容として整理をされているだろうかということで、こちらについては原則変更しない方針で行きたいと考えてございます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響というのは、かなり実感にも大きく影響してくるということで、その把握の方向ということを考えてございます。こちらの把握につきましては、下の想定される設問イメージというところで、今回新たに設問を起こしたいと考えてございます。こちらにつきましては、あくまでも分野別実感で得られる回答理由、変動理由、変動要因につきまして、それらを補足するような形で使っていければよいのではないかと思っております。

ちょっと先に、反映イメージということになるのですけれども、下の方にお示ししてございます。今年「余暇の実感」というところになりますと、１位が自由時間の確保というところがあったのですけれども、ここがかなり影響されてくる部分なのかなと思いますので、そこは今回除外をさせていただきまして、それ以外の項目のところで、特に影響が見られるのではないかということで、記載例ということで記載してございます。

例えば趣味・娯楽活動の場所・機会ですとか、知人・友人との交流ということになりますと、新型コロナウイルス感染症の影響として考えられるのが、例えば外出の機会が減っ

たということがあって、外出できなかったので、趣味・娯楽活動の場所や機会が確保できない。もしくは、知人・友人との交流の機会を設けることができなかったというようなことを踏まえて、外出自粛の影響で趣味・娯楽活動や、知人・友人との交流が十分にできなかったことが推測されるというような形で、この表現が適切かどうかは、今後の検討次第ということにはなるのですが、いずれ今回得られる設問で変動理由として挙げられたものに対して、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられるものについては、補足的に補っていくというような形での仕様を考えていきたいと考えてございます。

実際に、ではどういった設問をするのかということになりますと、その１つ上に戻っていただくのですけれども、１つは自由時間の増減というものがあると思います。こちらにつきましては、先ほど余暇の充実のお話をさせていただきましたけれども、こういったものが１つ影響してくるものとして考えられると考えております。

３番から６番のところにつきましては、人と話す機会が増えた、減ったということで、想定しているものといたしましては、家族については、例えばリモートワークですとか、あとは外出自粛というようなものがあって、機会が増えてきたりしている部分が大いにあるのではないかということが推測されますし、あと逆に家族以外の方々については、なかなか地域で会っても話をする機会が減ったりした部分があるのではないかということで、分野的にはつながりの部分なんかのところに、こういったものの要素が影響してくるのではないのかなと考えてございます。

７番、８番の外出機会の増減というところになります。こちらにつきましては、やはり健康の分野ですとか、そういった部分のところに大きな影響が出てきているのではないのかなと考えてございますほか、９番から 11 番のところにつきましては、仕事、収入ということで、仕事の時間がこちらについては増えた方もいらっしゃれば、逆に大きく減った方もかなりいらっしゃると、そういったようなところで、最終的には回答理由として得られる、例えば収入の額とか、そういったような内容のところに対する補足という形で使用できればよいのかなと考えて整理をしたものでございます。

最後に、在宅勤務の機会ということ、新たにやはりリモートワークというのが社会的にも大きく受け入れられてきている部分ございますので、そういったものがどういう影響をしているのかなというのも、ここの中で一つ整理されればいいのかなと思って、追加しているというようなものでございます。

続いて、次のページを御覧いただきたいと思います。先ほど少し触れさせていただいたところなのですが、その他所要の見直しということで、今回分野別実感の反映、評価に対する反映ですとか、あとは回答者さんの御負担というものを一部考えながら、検討をさせていただいたというものでございます。

具体的には、「地域の安全」というところの見直しを図りたいと思っておりまして、お手元には別紙２ということで、先ほどの新型コロナウイルス感染症の検討も踏まえて、事務局側で作成したものでございます。こちらにつきまして、５ページに黄色いセルで全体を表記させていただいているのですけれども、地域の安全という項目につきましては全部で 18 項目、この中で一番多い設問があるということでございます。こちらにつきましては、ほかのところに比べてもかなり細かく設問が用意されているということになるので、少しこちらについては統合ということも可能なのではないかということで、今回検討させてい

ただいたというものでございます。

こちら、お手元には、今回岩手県民計画の旧版を配付させていただいております。県の施策体系について簡単に御説明をした方がよろしいのかなと思っているのですけれども、今県の施策につきましては、５ページをお開きいただきますと、私どもの方で政策推進プランと呼んでいる、県民計画本体は 10 年計画なのですけれども、そのアクションプランとして４年の計画で政策推進プランというものを設定してございます。その計画につきましては、この基本方向にございます 10 の政策分野に基づいて政策を形成して推進しているということになりまして、現在ですと、この 10 の政策分野の下に政策項目として、さらに細部化した 50 の政策項目を御用意させていただいているということになります。

今回政策の実感をいただいているのは、実はこの 10 の分野のうちの８つの分野になっておりまして、９番と 10 番につきましては、ほかのところの下支えということで、実際の政策評価への反映といたしましては、この上記８つの分野についてさせていただいておりまして、社会基盤ですとか参画ということについては、この８つの分野にまたがる整理ということで、政策は進めさせていただいているというものでございます。

安全という部分に限って申し上げさせていただくと、今回この分野、低下した要因として挙げられているものの一つが自然災害の発生状況でございます。それ以外のものが自然災害に対する予防、そして社会インフラの老朽化という、この３つの要因が大きな要因として今回推測をさせていただいているというものでございます。

実は、10 番の自然災害に対する予防ということになると、社会基盤的な要素ということで、ハードの整備の部分並びに社会インフラの部分もそうなので、実は政策評価上からいくと、９番のところで整理がなされていると。安全といったときに、９番のところなのですけれども、自然災害の発生状況というものを政策評価に直接生かしていくとなると、なかなか難しいのではないかという意見が出ております。ほかのところにございますような犯罪の発生状況ですとか、交通事故の発生状況というのは、ハード、ソフト両面から対応というものが政策上行われているところであって、防災につきましては 11 番から 13 番、あとは８番もそうなのですけれども、地域の防災体制ですとか、あとは 11 番からのところについては、行政側としての災害防災体制という形で整理されておりまして、こういったようなところが来ると、やはりきちんと施策的な立てつけとして課題抽出して、施策形成というものをやっていけるところなのですけれども、自然災害の発生については、政策的努力ではなかなか軽減させることが難しいという部分がございますので、こちらの部分も総体的に整理していければなと思っているところでございます。

具体的にどうするのかという話なのですけれども、８番の地域の防災体制はこのとおり、そのままで行きたいと思いますが、11 番から 13 番のところについては、発災前、発災直後、発災後の細かい部分で防災体制の整理がなされているところなのですけれども、こちら先ほどもお話ししたように、分野としてかなり大きなカテゴリーの中で実感の変動要因を探っていくという整理になると、右側になるのですけれども、８番に自然災害に対する行政の防災体制というような形の中で整理していくことができないだろうかというのが１点でございます。

自然災害の発生状況につきましては、例えば行政の防災体制とか、地域の防災体制ということの不安となった原因というか、要因というか、そういったような中での整理をして

いただくのがよろしいのかなと思っています。今年につきましても、令和元年東日本台風につきましては、特出しでデータ記載をさせていただいておりますけれども、ああいったような防災体制に対する不安を醸成した要因というものは、こういうものなのだというような形での整理というものが一つ可能なのではないかということでの今回の御提案ということでございます。

あと、もう一つでございます。これは、自然災害とまた別途なのですけれども、去年、昨年度も本会の中でいろいろ御議論いただいたところではあるのですけれども、地域の防犯体制というところで、いわゆる防犯パトロールというソフト面の部分と、街頭防犯カメラということで、ハード面ということで区分けをしてございます。街頭カメラというのを全面的に政策として押し出していくというのは、なかなか難しい部分もございますので、やはり防犯体制の整備となると、ソフト、ハード両面から検討していく流れになっていくのが整理しやすいのかなという部分を考えてございます。特に街頭防犯カメラになりますと、やはり商店街の皆様ですとか店舗の方に御協力いただく部分もかなりございますので、そういったことも含めると、ここのところは地域の防犯体制という形で一律で整理してはどうでしょうということで、今回御提案をさせていただくというものでございます。

最後、補足的なところになるのですけれども、15番のところに、現在の設問上、インフルエンザの発生状況という例示をしてございます。こちらにつきましては、今回の新型コロナウイルス感染症も当然ここの中に入ってくるということになるのですけれども、設問の中に新型コロナウイルス感染症の名前が入ると、かなり設問のバランスを崩すというか、やはり皆さんそこに丸をつけていただくケースが増えてしまうということなので、一応ここのところについては感染症というくくりに整理をさせていただければなということで、右側の修正案のアンダーラインが入っているところが、今回の事務局側からの御提案ということでございますので、御意見等いただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。調査項目を若干修正したいということですので、今説明していただいたとおりなのですけれども、御質問があれば、まず受けたいと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○ティー・キャンヘーン委員　今説明してもらった５ページの表なのですけれども、少し危惧したのは、例えば「安全と感じますか」で、「感じる」でもいいですし、「感じない」でもいいのですけれども、そのどちらかに丸をしたときに、その回答が８番だとなれば、「感じない」では多分３つとも足りないと判断して、ここで言う５番の安全で反映するというような感じなので、果たしてそれで合っているかどうか。十分やったという、書いている本人は十分やっていない、ここの項目に入っているので、それに丸をしてしまったのですけれども、全部が駄目だということは言っていないというような、そこまで言うと多分全部見直さなければいけないかもしれないのですけれども、そこら辺は要するに施策評価をするに当たって、それは問題ないのかなと思いました。

○吉野英岐部会長　では、事務局どうぞ。

○池田政策企画課主任主査　今私の考え方というところにもなってくるのですけれども、基本的に今回の分野別実感のところに対する要因というのは、いわゆる政策的に言えば問題認識ということだと思っています。先ほどお話があったように、確かに防災体制と一くくりになったときに、どこが問題になるのかという多分御指摘の部分なのかと思うのですけれども、そういった部分踏まえて、１つはそういう防災体制の部分が県民の皆さんに浸透していないとか、もしくは対応そのものが足りないのだとか、そういったものがいろいろ、もろもろあろうかと思います。そういったものについては、施策形成上において課題認識、まずこの問題点を提起された中に対して、どういう課題があるのかということを各担当課のところで抽出して、それに対する対応策を練っていくというのが施策評価のありようと考えてございますので、ほかのところについてもここまで細かく聞いていない。例えば仕事、収入では、収入額をずばっと聞いているのですけれども、どういう形で収入が減ってきているのかとか、そういう細かいところについては、やはり担当部局のところで景況等を判断して､様々な､これ以外のところにも計画の中で指標等ございますけれども、そういった指標の状況ですとか、取組状況、社会経済情勢、あとはその他の主体の取組状況等々踏まえながら、今現状としてこの施策分野の中で何が課題としてあって、それをどうするのかという形の評価の中で、これが活用していけるようになればいいのかなと思ってございます。

確かにお話しのとおり、正直ここが細かければ細かいほどいい部分もあるのですけれども、そうすると今記載しているのはある意味事業レベル、いわゆる施策分野があって、施策項目があって、県の取組があって、さらにその県の取組の中の事業ということになってくるので、そのレベルを押しなべてほかのところも聞いていくのかということになると、正直なかなか設問が増え過ぎてしまって、難しくなってくるのではないかと思ったので、我々としては設問のレベル感とすると、概ねそれぐらいになってくるのではないだろうかという形での御提案ということでございます。

○吉野英岐部会長　ティー先生、いかがでしょうか。

○ティー・キャンヘーン委員　そういうので、問題がなければ。

○吉野英岐部会長　では、若菜さん、どうぞ。

○若菜千穂副部会長　今のティー先生のについては、私も前回ずっと疑問だったのですけれども、それで行くということだったので、しようがないなと。

これは安全のところなのですけれども、追っかけ調査をしているので、設問の選択肢を減らすのはいいのですけれども、これ全部リンクしていないと、例えば前の３番が今度は２番になるよとかと、くっついていないと追えないのかなと思って、少しチェックしてみたのですけれども、古い方の９番、自然災害の発生状況、これは新しい方のどこに入るのですか。それとも漏れがあってもいいものですか。

○吉野英岐部会長　はい、どうぞ。

○池田政策企画課主任主査　先ほども少しお話をさせていただいたのですが、お話のとおり設問を減らすことはできればしたくないなとは思ったのですけれども、現状とすると先ほどお話しのように、この発生状況そのものというのが、１つは施策的になかなか反映できない質問だということで、あとはいわゆる地域の防災体制とか、行政の防災体制に対する不安の基になるというか、そこに対して不安を抱いた要因としての、もう一つ下のと言ってはあれですけれども、この施策、この不安感を醸成する要因の一つというような形での整理ができないかということでの御提案ですので。

○若菜千穂副部会長　では、その他かな。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。もしくは、やっぱり統計上になると、このまま残した方がいいのだということであれば、当然にそのまま残すという選択肢もあろうかと思いますので、私どもとしては実際に活用していくのだったら、こういった形でいかがでしょうかという部分での御提案でございます。

○若菜千穂副部会長　それであれば、本当は現状でこれを選んでいる人が何人いるかという数字は欲しかったですね。

○吉野英岐部会長　分厚い青い資料の補足調査結果のところを見ればいいですか。一番後ろです。補足調査の質問票も載っていますが、青い資料の問いというか、地域の安全の（２）を見ればいいのかな。

○池田政策企画課主任主査　69 ページですと、パーセンテージも含めて出ているかと思うのですが。資料番号が参考資料４の 69 ページのところに、今回の地域の安全の回答理由の内訳表が詳細に載ってございます。

○和川特任准教授　38％ですね。

○池田政策企画課主任主査　そうです。

○若菜千穂副部会長　多い方。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。今回３つの理由の中に入っているということがあって、先ほどもお話をさせていただいたのですが、今回の３つの理由のうち２つが社会基盤の整備で、実感が下がるのは安全の部分が下がったのですけれども、安全に直接係るのがこの自然災害の発生状況ということをもって、なかなか政策評価は。

○若菜千穂副部会長　２番目に多い回答だ。

○池田政策企画課主任主査　施策への反映がなかなか難しいのではないかという話があって、そこのところを何とかできないだろうかなということで、今回御提案はさせていただいてみたということでございます。ただ、やはり今回の調査に与える影響もかなり大きい部分でございますので、そこのところの検討については、いろいろ御意見をいただく必要があるのだろうと思ってございます。

○吉野英岐部会長　和川さん、どうぞ。

○和川特任准教授　趣旨はよく分かりました。それを踏まえた上でなのですけれども、やっぱり私としては残した方がいいと考えております。使いやすいように調査を行うというよりは、正確に把握するというのがやはり重要かなと考えております。政策が及ばない理由だというのが分かることも重要な知見なのかなと考えています。評価のときに使いづらいというのは、おっしゃるとおりかなと思うのですが、それであれば１、２、３位ではなくて５位まで、例えばここについてはある程度政策で補足するために５番まで分析しますよとか、そういった形で政策で対応できるものは、１、２は対応できないから、３、４、５まで拡大して分析しましたみたいな形で、分析で対応するということで何とかできないのかなというのが私の感想になります。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。残してもいいのではないかという御意見ですね。

ほかにいかがでしょうか。ティー先生、続いて。

○ティー・キャンヘーン委員　自分の住んでいる地域というのは、自分がどう感じているかというのは、確かに県政にはちょっと反映させにくいのですが、でもやっぱり何かそういう政策を打つときに、こういうのは重要だと頭の中にあった方がいいかなと思って、削除しなくてもいいのかなというのを私も今聞いて思いました。

○吉野英岐部会長　削除しなくてもいいのではないかと。政策対応が合わない分野としても、意見としてはかなり出てくるというか、回答率も高いというか。

では、引き続き若菜委員。

○若菜千穂副部会長　ほかのところと比べると、ここだけえらい政策チックで、ほかのところとはものすごくアンバランス感で、誘導性も感じてしまいます。聞き方が、ほかのところは普通に要素だったりするのです。ここは政策を選ばせるような感じがして。

○吉野英岐部会長　家族の借金の額というのは、政策ではないですからね。

○若菜千穂副部会長　私もほかのところとの横並びというか、ほかのところの金額の方は

素直で、それに対してどう政策を打つかは幸福のアンケートの趣旨ではないかなと。

○吉野英岐部会長　ということは、あってもいいということ。残しておいてもいいのではないかと。

○若菜千穂副部会長　あってもよい上に、すごく情報発信が幾つかありますよね。そこをもう少し丸めてもいいのではないかぐらい、ほかの聞き方とのバランスも考えますと。

○吉野英岐部会長　バランス。

○若菜千穂副部会長　ここだけすごく政策評価っぽいという要素ですよね。

○吉野英岐部会長　という御意見もありました。

○池田政策企画課主任主査　ここは、チャレンジというわけではないのですが、お話はそのようにしていきたいと。先ほどもお話ししたように、自然災害の発生状況があったがゆえに、多分防災体制に対する不安感、もしくは満足、不満足が発生してきているのではないのかなと思っていたので、我々とすればそういう整理が可能かなとは思ったのですが、今の御意見を踏まえまして、そういった方向で再整理をさせていただきたいと思います。
　すみません。ここから若干離れるわけではないのですが、竹村先生に事前にお電話で御説明をさせていただいて、こちらの防災のところについては、委員会に一任しますというお話をいただいているのが１点と、コロナの方なのですけれども、少しお戻りいただいて。

○吉野英岐部会長　前半の方ですか。

○池田政策企画課主任主査　はい。想定される設問イメージというところで、先生からお話があったのが人と話す機会のところ、家族と家族以外で分けているところなのですけれども、先生からは家族と親戚とそれ以外というお話がございました。どうしてですかというお話をしたら、これから交流人口の話をいろいろ検討していく上では、そういった部分についてもう少し聞いてみてもいいのではないだろうかと。特になかなか帰省できていない部分とか、親族同士がなかなか会う機会がない部分もあったりしているので、そういったところについて一応御提案をさせていただきますということでしたので、この場で御説明させていただきます。

○吉野英岐部会長　具体的に、では修正するとすると、家族と別に親族という選択肢を入れると。

○池田政策企画課主任主査　はい、そのように。

○吉野英岐部会長　最後は、家族、親族以外と。

○池田政策企画課主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　そうすると、２個増えるみたいな感じですか。

○池田政策企画課主任主査　というようなお話をいただいて。

○吉野英岐部会長　そういう御意見もあったと。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。それについては、委員会の中で御検討いただければということでございます。

○吉野英岐部会長　では、今コロナの方に入ってしまいましたけれども、すみません、さっきの安全ですね。地域の安全については、残すことも含めて再検討という方向でよろしいですか。

「異議なし」の声

○吉野英岐部会長　では、それはまた委員長と事務局で相談をさせていただいて、進めていきたいと。残す意見もあると認識して進めます。

自然災害の発生状況が今テーマになったのですけれども、自然災害の発生状況というのは、施策的にどうしようもないではないかということで、これは少し難しいねという事前の御説明を受けたのですけれども、確かにそういう面もあるのですが、災害そのものは、実は自然状況がどうであろうと、割と自然状況だけで起こるわけではなく、災害にならないということが、どんなにかなり強い雨が降っても、災害にならないようにしているというのが実は現状で、そのためにいろいろ見えないところでこれまで施策を展開して災害にさせないと。しかし、それを超えてしまっていれば、実は弱い雨でも災害になるということも起こりますし、かなり強い雨でこちらの想定を超えてしまって災害になってしまうということもあって､それはもともとさせないというところが及び切れなかったと考えると、単に自然現象ということがいきなり災害というには、イコールではないのかなと、本を読んだら感じて、要するに脆弱性という言葉を我々よく使うのですけれども、社会側が持っている脆弱性に災害がついてくるという。

だから、なるべく脆弱性を本来であれば避けなければいけないのだけれども、それがどこが脆弱なのか分からないまま、施策を打たないと、結局そこに災害が刺さってきて、被害が大きくなってしまったと考えると、やっぱり災害そのものをあまり起こさないようにすること自体が実は災害を減らしているので、単に災害が起こったのは自然のせいですよというまでは、確かに言い切れないかなと思ったのです。

発生というのは、台風の発生を抑えるという話はまた別なのですよね。台風そのものの発生を抑えることはできないけれども、それが災害につながるところまで来て、災害が発生するかしないかというのは、社会の側でかなりブロックできるはずなのだけれども、結

局し切れずに災害になってしまったことがどんどん増えているとなると、やっぱり政策的にも全く無関係の設問ではないかなとも思っていました。でも、そこも含めて、改めて事務局とこれは協議したいと思います。

もう一つの方のコロナで家族と親族と家族親族以外という御意見が今あったということです。家族社会学者ですので、なかなか細かいですね。家族と親族の違いというのも難しい。

○若菜千穂副部会長　難しいですね。

○吉野英岐部会長　難しいのですよね。どうなのですか。どこまで家族で、どこまで親族だと言われると。

○若菜千穂副部会長　私は、この設問イメージ自体があまり適さないのではないかと思っていて。というのも、この補足調査で聞いていることも、実感が上がったか下がったかというのと、その上がった下がったの要素はどれかまでしか聞いていなくて、その要素が、では例えば今の自然災害が増えたからなのか、自然災害が減ったからなのか、単に台風でも災害までつながらなくなったからとか、その理由までは聞いていないのですね、ほかのことも。それで、なのにコロナだけ自由時間が増えたからとか、自由時間が減ったからだと、多分次補足調査した結果を全部コロナのせいにしてしまう、これだけ聞くのです。なので、コロナの影響の課題評価につながってしまうのではないかと。

恐らくもう少しストレートに聞きたいことを聞いてしまえばいいと思っていて、それであれば、私だったら全部ばっと聞いた後、コロナの影響を受けた実感はどれですかみたいな感じで、もう率直に聞いてしまって、それで 12 だったら 12 から選んでもらうという、それくらいと、あと補足調査、今年度細かくやりましたけれども、記述がもう少しあってもいいのかなと思って、もしそれであればコロナに関しては、ではそこまで選んでもらった上で、具体的にどうですかという記述をしてもらうことでいいのではないかなというのが意見でした。

基本的には、聞きたいことを率直に聞かないと、これ聞いてしまうと全部これに結びつけたくなってしまうのです。それは、多分アンバランスだしという状態。

○吉野英岐部会長　むしろコロナと政策領域の関連性を、政策分野か。

○若菜千穂副部会長　結局変動を分析するのですけれども、コロナによる影響をあなたは受けたと思うのはどれですかということで、それを丸つけると。

○吉野英岐部会長　10 個並べておいてと。幾らでもという、そういう聞き方もあるのではないかと。

○若菜千穂副部会長　そうですね。余談でした。

○吉野英岐部会長　そのほか。
　山田先生、どうぞ。

○山田佳奈委員　私は、ここは何か必要だろうなと思いながら、最初にこれどう分析するかなというのが、実はなかなかイメージが湧かないまま、すみません、今日を迎えてしまいました。今若菜委員がおっしゃったことも一つあるなと思って伺ったのですが、そのときの設問肢というのが、これ難しくなるかなという気もしているのですが、もしこれであればという仮の話になってしまうのですけれども、自由時間というのは、例えば自宅で待機していてくださいといった方の場合、それを自由時間と捉えるかどうか。

○若菜千穂副部会長　そうだよね。

○山田佳奈委員　それは自由のように見えて、実は不自由だとも言えそうです。

○吉野英岐部会長　自由であって、不自由と。なるほど。

○山田佳奈委員　ですので、もし聞くのだとすると、それで在宅時間ということだったらニュートラルかなと、例えばですね。。

○吉野英岐部会長　価値判断を入れないと。

○山田佳奈委員　そうですね。ということでいくか、そこから何が見えてくるかという話になってくるのですけれども、ポンと聞いてしまうということでいくと、本文の下の部会レポートへの反映イメージの中の趣味・娯楽活動の時間の増減など、そこの中身で聞いてしまうというように。どこら辺のバランス感覚というか、抽象度とニュートラルさというか、価値判断入れるかといったところがちょっと分からないかなと思いまして。今それでまだ悩んでいるところなのですけれども。
　あと、もしこれで行くとすると、その他を入れるかどうか、どうしようかなという。ただ、書く方にとっては、やっぱりそれを書きたいということも当然あるのではないかなという気がしますので、そこも併せて皆さんの御意見を伺いたいなと思っていました。
　以上です。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。選択肢の書き方というか出し方、その他も含めてどうするかということで、まだ思案中であると。
　では、ティー先生。

○ティー・キャンヘーン委員　山田委員のイメージの助けになるかどうか分かりませんけれども、例えば余暇の時間が減りましたよといって、では余暇の時間が減ったときに、ここを引っ張ってきて、ここでコロナの影響はあった、なかったかというのを、今回に関しては多分これかなり引っ張られるような気がしないでもないのですけれども、そういう分

析を、今回は多分聞かざるを得ないのですけれども、もし本当に今回の調査で、どこかの分野において下がったというときに、はっきりとした理由はないので、コロナでしょうと押しつけられそうな気がして、だから本当は若菜委員が言ったように、この質問の方がいいのか、例えばコロナの影響はあったとか、何か尺度みたいな感じで丸してもらうとかいうのも、本当にそれでいいかどうかちょっと分からないのですけれども、こういうこれまで私たちがここで考えそうな原因以外のものがやっぱり今回はあった方がいいのかなと思いました。

○吉野英岐部会長　具体的には、コロナに関して質問を入れることはいいかもしれないけれども、聞き方というか。

○ティー・キャンヘーン委員　そうですね、影響度みたいな。

○吉野英岐部会長　それぞれの施策領域というか。

○ティー・キャンヘーン委員　でもいいし、もしかしてその尺度で、1から 10 であなたの影響はどこら辺ですかという。

○吉野英岐部会長　一般的に聞いてしまう。

○ティー・キャンヘーン委員　そうです。すみませんが、私もちょっとまだ思案中です。

○吉野英岐部会長　あるいは、体の健康、心の健康、余暇の充実、家族関係とされているので、それぞれに対してコロナの影響度はどのぐらいありましたかというのを聞くことも可能と。

○ティー・キャンヘーン委員　そうですね。

○吉野英岐部会長　分析しやすいのは、そっちでしょうね。ありそうな気もしますけれども。

○ティー・キャンヘーン委員　そっちは、多分全部丸しそうだなと。

○吉野英岐部会長　全部あったと。

○若菜千穂副部会長　そうですね。確かに1・ゼロだとそうかもしれないです。

○ティー・キャンヘーン委員　分からないのだよね。本当にすみません。ちょっと分からないです。影響ありそうなのだけれども、どうしたらいいのかなと。

○山田佳奈委員　それこそもやもや感というのですか、そういうのも入れるとすると、結構どう設問をつくっていいか分からないというもやもや感はありますかね。

○ティー・キャンヘーン委員　入れない方がいいかな。

○吉野英岐部会長　どうぞ、事務局。

○池田政策企画課主任主査　私が今少しティー先生と若菜先生のお話を聞いて、イメージ的には確かに５段階で各分野ずらっと並べて、この各分野についてのコロナの影響はどのように考えていらっしゃいますかとつけていただいた方が、もしかするとより要因の整理とするといいのかなという印象を持っています。

○ティー・キャンヘーン委員　分析の負担は非常に増えそうですね。

○池田政策企画課主任主査　というところも、この設問をつくった時からそのお話は。

○吉野英岐部会長　でも、書きたがるよね、これ。書く気持ちは強い。

○ティー・キャンヘーン委員　そうですか。

○吉野英岐部会長　はい。どうしても丸つけたいという人はいらっしゃるのではないですか。ひどい目に遭ったとか。

○若菜千穂副部会長　今回はいいのではないですか。

○池田政策企画課主任主査　そうしたときに、評価上とすると、今あるような反映イメージのところにあるのですけれども、ここのところになると、要はアンダーラインで書いているところについては、影響を受けたというような回答になったときには、新型コロナウイルス感染症の影響が特に考えられるというぐらいの表現で整理がされていくようなイメージということでよろしいでしょうか。

○吉野英岐部会長　全部コロナのせいにするわけにはいきませんけれども、影響が大きいことはあり得ます。何せ今までなかったものですから。突然今年の１月から出てきて、いまだに影響が続いているというのは、確かに事実は事実。

○若菜千穂副部会長　ただ、その実感が上がった、変わらない、下がったが前にあるではないですか、一番上に。上がったものについて、ではコロナの要因が強く出たもの、中くらいのもの、弱いものと、そういう分析になるので、全部が全部にはならないと。一応その方が分析しやすいですね。

○吉野英岐部会長　確かに分野別で見ても、自然のゆたかさに影響があるかどうかよく分からないですものね。

○若菜千穂副部会長　実感がすごくよくなって、コロナの影響が強いと、それはどういう答えなのだろうとか。面白いですね。

在宅時間が増えて、家族との関係がよくなった人もいれば、悪くなった人もいるみたいな、多分。確かにその結果は面白いですよね。下がったで強くなった、増えるだろうという仮説ですけれども、もしかしたら上がって強いのもあるかもしれない。

○池田政策企画課主任主査　個人的には、家族はまさにお話のとおり、どっちに振れるか分からないというところが確かにあるのかなとは。

○若菜千穂副部会長　各家庭それぞれの。

○吉野英岐部会長　では、例えば家族関係、よい関係が取れていますかというところに「感じる」とついた人が、コロナの方の影響でたくさんあったともし答えたら、やっぱり家にいる時間が増えて、家族間コミュニケーションが前より密になったという解釈が成り立つと。

○若菜千穂副部会長　そう、そう。

○吉野英岐部会長　では、「感じない」という人について、影響が大きかったという人は、では何なのだという気がしますが、でも使えそうだという気はする。

谷藤委員、何か。

○谷藤邦基委員　正直私もかなり悩みながらこの設問イメージを見ていたのです。例えば人と話す機会が増えた、減ったという話、人と話す機会、直接対面で話すだけではないですよね。ここを回答する人はどう考えるかというと、少し面倒くさいかなと。例えば自由時間についても、先ほど山田委員からお話あったとおりで、人によって受け止め方が違ってくるでしょう。

○吉野英岐部会長　例えば不自由時間が増えたという。

○谷藤邦基委員　外出機会が増えた、減ったは、これは割と明確かもしれないけれども、ほかは回答する人の受け止め方次第で、いろんな観点からの回答になるのだろうなと思って見ていました。

もう一つ思ったのは、これ皆さん、コロナの影響は一時的なものだと考えていますよね。ですが、例えば在宅勤務は恒久化する可能性があるのです。一時的な影響と恒久化する影響というのをどう将来的に考えていくかというポイントも、もう一つ実はあるのだろうなと。それやこれや考えていくと面倒くさいので、若菜委員が言われたやり方だと、そうい

う悩みは減るかなとは思う。直接領域別実感にコロナの影響を関連づけるというのは、そこはあまり悩まなくて済むなと。ただ、割と逆にそれ聞かれると、ありましたよねということで、５ではないかもしれないけれども、４につけたりとかというのが出てくるかもしれない。

○吉野英岐部会長　バイアスがかかるかもしれない。

○谷藤邦基委員　改めて聞かれると、そう言えばないことはないよなみたいに。だから、そこら辺どうバランス考えるかというのは、面倒くさいなと思いながら。だから、私自身結論は出ていません。ただ、若菜委員の今の提案は、検討の価値は十分あるなと。あとは、それは過大に相手というか、回答者が反応しないような工夫をしなければいけないだろうなと思ったけれども。まだ今の段階では、そんな感じです。

○吉野英岐部会長　分かりました。今例示されているのは、生活様式を聞いているような感じですかね、行動とか。だけれども、趣旨としてはやっぱりこれがどう全体とつながるかということですか。
　どうぞ、事務局。

○池田政策企画課主任主査　すみません。まず、１つお伝えをし忘れたのは、まさに谷藤委員がおっしゃったとおり、竹村先生からもこの会話のところについては、直接という言葉を入れる提案を頂きました。今だとやっぱりリモート関係とか、いろいろやっているので、対面だけ、あくまでも対面だということです。

○吉野英岐部会長　対面でということですね。これで残すのであれば。

○池田政策企画課主任主査　ということがございましたので、まず先に御報告をさせていただくのと、それから恒久的要因というお話が先ほどございました。私どもとしても、今回の新型コロナウイルスの影響が単年で収まるとはなかなか考えにくいとは思ってございますので、恐らく今回のやり方が少なくとも現アクションプランの間は、こういったことを聞いていかざるを得ない状況にあるのではないのかなとは思っています。それらの恒久的要因となるかどうかというところについては、その次のアクションプランを作るときに、こういった設問のところもきちんと見直しをしていく中で整理がされていくものなのかなと思っております。
　あとは、先ほども申し上げましたが、お話のとおり、先ほど若菜先生から御提案があった部分については十分に検討したいなと、もちろん前向きに。

○吉野英岐部会長　そうですね。

○池田政策企画課主任主査　あとは、委託費との関係もありますので、そこも含めつつ、整理をさせていただきたいと思います。

○吉野英岐部会長　調査統計課の親会社さんの方も、コロナについて設問を入れるような検討をされているのですか。いわゆる県民意識調査、本県 5,000 人の方。

○桜田調査統計課主任主査　この話を聞く前は、検討はしていなかったのですけれども、今回の部会の議論を踏まえて政策企画課からお話がありましたならば、検討はしたいと思っております。

○吉野英岐部会長　多少その設問を増減することは、可能ということなのですか。

○桜田調査統計課主任主査　そうですね。ページ数的には若干余裕がある状態なので、期限的に 11 月中旬には原稿を確定しないといけないので、それまでに設問をつくれれば、できると思います。

○吉野英岐部会長　そうですね。では、5,000 人調査も含めて、コロナに関する設問は入れる可能性もありますと。入れ方としては、行動様式を聞く、生活様式を聞く入れ方と、私たちの分析部会としては各政策分野か、分かれると思うのですけれども、12 の 1 回目に聞いたものとひもづけするような形で聞くことで、分析に使えるのではないかという、特に我々の方はそうなるし、本編の方はこういう聞き方していないので、本編は本編でまた違うかもしれません。
　どうぞ、事務局。

○池田政策企画課主任主査　今のお話を伺っていて考えたのは、やっぱりある程度県民意識調査と補足調査、同じような聞き方をするということを考えると、この個別のイメージというよりは、今回お話をいただいた各分野のところで、実感についての皆さんの正直なところをお伺いするのが、まず来年度の補足調査と県民意識調査の方向性としてはよろしいのではないのかなと事務局としては考えているところです。

○吉野英岐部会長　まとめで聞くか、一個一個くっつけてしまうかというのはありますね。分野のおしりにくっつける。

○ティー・キャンヘーン委員　くどいですね。

○吉野英岐部会長　一遍に 12 個出して聞いた方がよいですか。

○ティー・キャンヘーン委員　はい。1 個ずつ聞いていくと、くどいです。

○吉野英岐部会長　毎回コロナかと。最後は、コロナで締めるみたいになってしまうと。

○和川特任准教授　バイアスがやっぱりかかるかなと。

○吉野英岐部会長　そうだね。もう 12 回もコロナ聞くと、みんなコロナのせいにしてしまう。なるほど。では、まとめて聞く方がいいかなと。

○和川特任准教授　その方がいいかなと、個人的には思います。

○吉野英岐部会長　分かりました。では、その形式も含めて、先生方の御議論踏まえて。聞くのだろうなと私も思います。ここで何にも聞かないというのも、県民から見ればコロナのことをほとんど意識しないのかと言われる可能性もあるので、何らかの形で聞く方がいいし、データも 5,000 人聞けばかなり取れるので、大事な情報になるから、ちょうどいいタイミングで聞けるとは思うのですけれども、その聞き方と使い方というのでしょうか、これについて 11 月いっぱいのうちには決めないと、印刷発注があるということですので、これも事務局と御相談の上で、これについてはもう一回先生方にお戻しして、メール上で意見を聞く可能性もあると思いますので、そのときは御協力いただければと思います。

記述式については、全然聞いていなかったのでしたか、今まで。記述するような欄は、本編もなかったのでしたっけ。

○桜田調査統計課主任主査　本編はないです。

○吉野英岐部会長　自由回答欄なし。

○桜田調査統計課主任主査　なしです。

○吉野英岐部会長　補足調査の方もなかったのですか。

○若菜千穂副部会長　ああだこうだとここで悩むぐらいだったら、書いてくれと、書いてもらった方が十分参考になると。

○吉野英岐部会長　スペースがあればね。あと、最近分析ソフトがあるので、使えばある程度まで分かるようになってきたのですよね、どうでしょう。分析屋さんの方としては。

○和川特任准教授　確かにかなり発達はしていると思います。ただ、事務局にそこまで分析を頼むのは、ちょっと酷かなと思います。それを分析するときには、生のままのデータを我々で解釈をしなければいけないと思いますので、そこを覚悟をいただいた上であればよろしいかと思います。

○若菜千穂副部会長　補足調査ですよね。

○吉野英岐部会長　はい。

○若菜千穂副部会長　600 人ですよね。

○和川特任准教授　600 人なので、それをみんなで読みながらというところを覚悟していただけるのであれば。

○吉野英岐部会長　全部生の声を聞きたいというか。

○若菜千穂副部会長　コロナに関してだけでも。

○和川特任准教授　ええ、１個だけということですよね。

○若菜千穂副部会長　多分Ａ４に収まるので。

○吉野英岐部会長　スペースの問題はありますけれども、こちらの都合だけで聞くのではなくて、対象者の方々の御意見も。かなり大きな影響のある事案ですから、全く聞かないというのも変だし、あるいはこちら側のやり方で答えてくれというだけでも、変は変という。

○若菜千穂副部会長　はい。

○吉野英岐部会長　スペースとの兼ね合いも踏まえて、検討してみてください。それをまた先生方に御意見を伺った上で、11 月だから結構急ぐのかな。急いでやってくださると思いますので、来週ぐらいには案が出てくると思いますので、よろしくお願いいたします。

（３）「幸福について考えるワークショップ」について

○吉野英岐部会長　では、幸福について考えるワークショップということで、こちらについて、まず事務局から御説明お願いできますか。

○池田政策企画課主任主査　それでは、資料３に基づきまして御説明をさせていただきます。

幸福について考えるワークショップの内容につきまして、本部会の方にフィードバックできるような形で進めさせていただきたいということにつきましては、前回の会議の方で御承認いただいたところでございます。来年度に向けて、現在我々の方で考えているイメージの部分を今回御説明させていただいた上で、来年度の事業に向かっていきたいなと考えてございますので、そちらの御意見を頂戴したいというものでございます。

基本的な流れといたしましては、研究会時代に作成いただいています。今回も参考資料としてつけさせていただいていますけれども、当該ワークショップの手引きの内容に基本的には基づいて、引き続き続けていきたいと考えてございます。

実施の時期なのですけれども、こちらにつきましては、本部会のレポートの作成が７月ぐらいで概ねの内容が固まってくるというところがございますので、ワークショップにつ

いては、できれば４月から６月の期間の中で実施できないかと考えてございます。
実施の内容ということで、①から④までについては既定のルートなのですけれども、その中で②の県の特徴の把握ということで、基本的にはここ、今までは県の統計情報の提供という形で進めさせてきていただいているところですけれども、ここのところで県民意識調査の結果、補足調査の結果というようなものを提示して、御意見を頂戴したいと考えているものでございます。
具体的にはということで、下のフローの真ん中のところに、「他者（県民）の幸福実感の把握」というところで記載させていただいておりますけれども、ここのところで具体的には実感が変化した人の主な回答理由の具体的な内容を頂戴したいというようなところと、あとは先ほども御協議いただいたところですけれども、補足調査の回答設問をよりよいものにしていくための御意見等を頂戴できればなということで、進めていきたいと思っています。
対象といたしましては、基準年と当該年である令和３年調査の比較をして、分野別実感が低下している分野を対象としたワークショップを行いたいと思っておりまして、その中でも可能であれば一番大きく実感が低下しているような属性の方を集めて、ワークショップができればなと考えているところでございます。分野の状況等によって、なかなかそういった部分、難しい部分かなりあると思いますので、そういった場合においては、そういった属性に属する方の御意見などを抽出するような形というものも現在検討しているというものでございます。
事務局からは以上となります。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。
という計画ですけれども、何か御意見があればお願いしたいと思います。
誰がやるのですか。書けないけれども、分かっているということですか。

○池田政策企画課主任主査　基本的にはこれから。

○吉野英岐部会長　では、計画ということですね。
では、谷藤委員、どうぞ。

○谷藤邦基委員　実施期間が４月から６月ということが書いてありますけれども、実際実施する日というか、曜日はどんなイメージですか。あるいは、時間帯というか。

○池田政策企画課主任主査　現時点では、いつということは決まっていません。最終的には、出てきた属性にもよるものが大いにあると思いますし、そういったところをまずは令和３年の調査結果を見て、あとは我々、これは委託させていただくことになろうかと思うのですが、その委託機関とか、見識のある、部会の皆さんからも御意見頂戴できれば、それらの意見を踏まえながらやっていければなと考えてございます。

○谷藤邦基委員　分かりました。要は、その属性の方々が参加しやすい曜日なり時間帯で

ないとまずいだろうなと思ったということです。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。
　令和２年はやっていないということでいいのですか、今年度。

○池田政策企画課主任主査　ちょうどこの時期、新型コロナウイルスの感染拡大かなり大きく話題になった時期でございますので、これを契機にというわけではないのですが、もう少し本部会の内容にもフィードバックできるような内容ということで、今回整理をさせていただいているという。

○吉野英岐部会長　令和２年は、もともと計画していなかったのでしたか。

○池田政策企画課主任主査　当初はやる予定ではあったのですが、なかなか人を集めるというのが状況的に厳しかったものです。

○吉野英岐部会長　もちろんそうですね。令和元年、平成 31 年はどうですか。

○池田政策企画課主任主査　平成 31 年には実施してございます。各広域圏で開催していただいているところではございます。

○吉野英岐部会長　それは、この分析部会でやっているのですか、それとも分析部会の前にやっていたのでしたか、令和元年、平成 31 年。

○池田政策企画課主任主査　令和元年は、分析部会とは別に、県の方で実施させていただいております。

○吉野英岐部会長　という整理で。

○若菜千穂副部会長　補足なのですけれども、令和元年度のときには、中間支援ネットワークに県が外部委託していて、中間支援ネットワークの団体が分担をしてという感じです。ワークショップの時間については、ワークショップ、みんないろいろやっているのですけれども、やっぱり若い人は平日の夜だし、年配の人だと平日の昼とか、土日の昼とか、やっぱり属性に合わせて柔軟に開催されると思います。
　改めてなのですけれども、これは指標をつくったときからの流れもあって、この一番最後の幸福を高めるというところで、では自分は何できるかみたいな、そういう落としどころで、令和元年もやったのですけれども、こういう議論であれば、もう率直にこの県民計画とかを見ながら、時間かかっているよね、下がっている人たちを集めているわけなので、ではどういうことがあったらいいかなというか、施策だけではなくて、どういう社会になったらいいかなみたいな、率直にそういった落としどころでもいいかなとは思いました。では、明日から何やりましょうではなくて。それもありです。なので、その辺りは御意見

聞いて、そういう新しいやり方もいいかなと思います。

○吉野英岐部会長　前使ったのはこれでしたか、手引き。

○若菜千穂副部会長　そうですね。

○吉野英岐部会長　これが令和元年仕様の手引きだったということですね。

○若菜千穂副部会長　そうですね。ワークショップの流れでいけば、その方が素直、下がっているのだけれども、皆さんどうですかと。県はこう考えているのだけれども。

○吉野英岐部会長　あなたは何をしますかという。

○若菜千穂副部会長　というよりは、こういう社会になっていくために、ではそれぞれの主体がどんなことをやったらいいかなぐらいの方が、政策にすぐ結びつくような落としどころの方が素直かもしれない。

○吉野英岐部会長　気持ちは楽ですよね、その方が。では、あなたはどうしますかと言われたら、さすがに「えっ」と思う。

○若菜千穂副部会長　そんな気がしました。

○吉野英岐部会長　分かりました。
　では、和川さん、どうぞ。

○和川特任准教授　元々このワークショップは幸福について県民の機運を高めようということ、そして計画をつくっていくための、県民計画として機運を高めるということだったので、そもそもこういう落としどころでやっていきました。今回は視点というのか、スタンスが変わってきているというのもおっしゃるとおりだと思いますので、そこはこれまでのワークショップの流れとは切り離して、柔軟に対応してもいいのかなと考えます。

○吉野英岐部会長　そうですね。県民参加型という感じだったのですね、以前は。当事者意識を持っていただこうとか、いろいろ期待度が大きかった。というのとは、ちょっと局面も変わってきたしということの御意見ですね。ありがとうございます。
　でも、これ予算化するという意味ですか、このペーパーというのは。つまり事業として予算化するというようなイメージ。

○池田政策企画課主任主査　基本的に事業はあるので、その内容をこういった形で進めていくという趣旨でございます。

○吉野英岐部会長　たまたま令和２年は、さっき言ったコロナの影響で実施に至らずということですが、令和３年でコロナが一応収まっているということを前提に、ぜひ実施したいという。その中身について御提案は、こんなものであるというけれども、柔軟に考えてもいいというような先生方の御意見だったわけですね。幸福を高めるというだけでもないのかなと、一番ゴールのところですか。何ができるのかというだけでもないかなという感じですか。

事務局。

○池田政策企画課主任主査　これは、本当に質問という感じなのですけれども、個人的な思いからすると、両方あってもいいのかなと。欲張った思いが若干あって、こういう社会があって、その中で自分は、ではどういうことをしたらいいのだろうかというような話に持っていくということもできるものなのでしょうかという。

○若菜千穂副部会長　２時間では無理です。分けた方が参加者の人も参加しやすいです。その属性によって、２パターンやったらいいかもしれないです。政策を聞く、つなげるところと、主観的な幸福感を率直に高めるところと。

○池田政策企画課主任主査　ありがとうございます。やっぱり個人的には、幸福感の醸成というのは､大きな目的としてここの事業の中に入っていると思いますので､一方では我々とすれば、そういった部分も聞きたいと。すみません、少し欲張ったお話をさせていただきました。ありがとうございます。

○若菜千穂副部会長　私の仲間は、やっぱりこれをやりたい人の方が多いので、県の政策に結びつける政策ワークショップではなくて。なので、両方と言われれば両方やると思うのです。

○吉野英岐部会長　なるほど。ありがとうございます。

これは受注者側の意向もあるでしょうから、県とすり合わせしながら進めると。だけれども、一応実施予定ということはこのとおりだということですね。実施そのものについてはいいですか、やっていただく分には。

○谷藤邦基委員　それはぜひ。

○吉野英岐部会長　ぜひ。ということで、実施については了解いただいていますので、その中身、あるいは時期、あるいは時間、場所等についてはもう少し詰めた上で、前と同じような委託業務にする予定ですか。

○池田政策企画課主任主査　そうです。委託できればなと思っています。

○吉野英岐部会長　前は、随契したのでしたか。

○池田政策企画課主任主査　プロポーザルです。

○吉野英岐部会長　プロポーザル、入札ね。

○池田政策企画課主任主査　はい。企画提案型で。

○吉野英岐部会長　そうなのですか。では、ライバルがいたということですか。

○若菜千穂副部会長　いたのですよね。

○吉野英岐部会長　いたのですね。当選して、受託をしたという形。
　そのスキームはあまり変えないということですか。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。なかなかこういったものについて、随意契約するとなると、かなりの要件が必要になってくるので、基本的にはオープンでやらせていただく形になるかと思います。

○若菜千穂副部会長　ぜひ県大等も。

○吉野英岐部会長　それほどのノウハウがなくて、落ちそうですから。
　では、形式も前回のやり方の契約方式で進めたいと。そうすると、いずれ募集をかけなければいけなくなると。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。いずれ来年度の事業になりますので。

○吉野英岐部会長　方向性だけで。

○池田政策企画課主任主査　方向性のお話ししかできない。

○吉野英岐部会長　来年度に入ってから。そうですよね。４月以降。

○池田政策企画課主任主査　予算次第というお話になってしまうのですけれども、我々としては、事務局としてはこういったことを次年度やっていきたいというものでございます。

○吉野英岐部会長　ということでした。
　何度も繰り返すようですが、今年は募集をしなかったということでいいのかな。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。

○吉野英岐部会長　予算はあったけれどもと。分かりました。
　では、これでやめるという意味ではなくて、来年度について、引き続きこういったワークショップ形式の意識の醸成や分析項目についての県民の皆さんの考え方も拾っていくという、やりたいということです。
　では、これは引き続き進めていくことで合意していただけたと思います。ありがとうございました。

（４）その他

○吉野英岐部会長　用意している議題はこの３つで、その他というものもありますが、これについてはいかがでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　それでは、資料４を御覧ください。今回の部会におきまして、一応今年度の御審議は終了ということに予定してございますので、次年度の開催予定についてお示しさせていただいております。
　流れといたしましては、今年度と同様に５月に１回目を開催して、以降７月までに大体年次レポートの素案まで作成した上で、今年度同様政策評価に活用をさせていただきたいと考えております。最終的には、本日同様 10 月に年次レポートの内容を決定した上で、次年度に向けた活動計画ですとか、先ほどもお話をさせていただいたように、補足調査の内容の見直しとか、そういった部分について御審議をいただきたいと考えてございます。
　以上でございます。

○吉野英岐部会長　来年度のスケジュールが出ましたけれども、御質問ありますか。
　和川さん、どうぞ。

○和川特任准教授　今のワークショップの結果は、どこの部会で反映されるイメージになりますでしょうか。

○吉野英岐部会長　どうぞ。

○池田政策企画課主任主査　それは、７月の部会のところまでにお出ししたいということで、６月までのワークショップの結果を速報的な形ということで御提供できればなと、今の段階で事務局としては考えているということになります。

○吉野英岐部会長　結構タイトなところですね、それ。

○和川特任准教授　実質第３回で中身を固めるイメージを考えていらっしゃるのですよね。

○池田政策企画課主任主査　はい、そうです。

○和川特任准教授　了解です。

○池田政策企画課主任主査　ただ、一方では今回の具体的な内容の補足的なところに、いわゆる主な理由のところはそのとおりになってくるので、場合によってはそこの部分で、最後の今回の部会のところで多少は内容を変更したとしても、それは大きな影響はないのかなとは、個人的には思っています。

○吉野英岐部会長　５月の第１回目の前には、その調査結果が上がってきているということですね。来年２月にやるというか。

○池田政策企画課主任主査　今年と同様に、ティー先生にも御協力をいただいて。

○ティー・キャンヘーン委員　頑張ります。

○池田政策企画課主任主査　御協力をいただきながら整理をして、できればそこまでお持ちしたいと。

○吉野英岐部会長　分かりました。委員会はこのとおりですけれども、委員には分析について作業をしていただくということがバックにあるということですね。

○池田政策企画課主任主査　大変恐縮でございますが、御助力を願いたいというところです。

○吉野英岐部会長　これ以外仕事しないよというわけではないということですよね。
　先生には、大変御負担かけますけれども、大丈夫でしょうか。

○ティー・キャンヘーン委員　今年度と同じような分析であれば、あとメンバーが変わらないのであれば、全く問題ないと思います。

○吉野英岐部会長　３月までは大丈夫でしょうね。４月以降は分からないけれども。
　ということで､来年度も５月から 10 月にかけて４回ほど分析部会を開催したいという御希望ですが。

○和川特任准教授　すみません。もう一点だけ。
　公開、非公開は、どうなりそうでしょうか。

○池田政策企画課主任主査　すみません、ありがとうございます。ここの場で御意見をいただいていく必要があると思うのでございまして、今回におきましても、今年と同様に５月、６月のところについては非公開の形で進めさせていただければなと考えてございますけれども、その点についていかがでしょうか。

○吉野英岐部会長　そうですよね。理由も一緒ですものね。まだ確定的な情報が出せないという。
　よろしいと思いますが、非公開でよろしいですか、５月、６月。

　「異議なし」の声

○吉野英岐部会長　７月の第３回では、公開。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。今年もそのようにさせていただきました。

○吉野英岐部会長　それと、第４回は公開予定。

○池田政策企画課主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　分かりました。ということで。
　それから、これはウェブ会議もやるのですか。

○池田政策企画課主任主査　そちらの方につきましても、ぜひ来年度からは導入できるような形で進めさせていただきたいと。

○吉野英岐部会長　そうですね。そうでないと、竹村先生に申し訳ないというか。

○池田政策企画課主任主査　そうですね。竹村先生とかには、実はお電話でお話はしていますが、来年度はぜひそういった形で御参加いただけますようにということで、お話をさせていただいています。

○吉野英岐部会長　御参加いただけるように、できる限りの環境をつくっていくということをお願いしたいと思います。
　では、来年 10 月まではこの予定ということで、我々任期いつまでなのでしたか。

○池田政策企画課主任主査　あともう１年ございます。ぜひよろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　この 10 月よりもう少し長いのでしたか、何月ですか。

○池田政策企画課主任主査　４月です。

○吉野英岐部会長　ということで、まだまだ任期中ですので、ぜひ継続してお願いしたいと思います。
　では、スケジュールについては以上でよろしいですか。

その他に事務局からありますか。

○池田政策企画課主任主査　特にございません。

○吉野英岐部会長　あと、委員から、しばらく全員で顔を合わせることはなくなりますが、御意見いただくことはよろしいですか。

山田先生。

○山田佳奈委員　それでは、今年度の最後ということなので、この部会のミッションではないところではあるのですけれども、県民の幸福感というところで。私は非常に不勉強だったところで大変恐縮なのですけれども、子供の幸福感の調査というのを実はやっていらっしゃるのですよね、他の部局なのですけれども。

結局今回の私たちのミッションは、18歳以上の県民ということでありますし、それの分析ということは確かです。もちろんそれを中心にしつつではあるのですが、新聞でも御覧になった方もいると思うのですけれども、日本の場合は子供の幸福度が低いといったことを考えると…。あと、それこそコロナの影響というのは、子供さんに直接関わっていくところで。さらに、総計審の部会というのは、この部会のみになりますか。ということで考えたときに、県民の幸福感と考えたときに、やはり子供さんの幸福感、多分これからも世界的に大きなイシューになるといいますか、そういうことを考えますと、しかもインクルーシブなところで考えますと、直接的にこの部会では難しいかもしれませんが、どこかで意識をしておいた方がいいのではないかなと。

そうした子供の実感を取っていらっしゃるアンケート調査というのはぜひ反映したいところで、接続できるかどうかというのは難しいかもしれませんけれども。長くなって恐縮ですが、実は同僚の先生から御提供いただいた情報で、イギリスと日本の共同研究で、思春期の頃の価値意識と高齢になったときの幸福感との関係についての分析があるそうなのです。この間教えていただいたのですけれども。そういった、それこそ長期的なというか、さっき若菜さんもおっしゃった、どういう社会、どういう岩手というか、そういうことを考えるときに、やはり子供の幸福感ということも、捕捉するのは確かに難しいことはあるのですけれども、どこかでしていければいいかなと。意見といいますか、こういうところでございました。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。これは、明日の政策評価に関わりますか、廣田さん。例の教育の部門で、子供、小中学生のたしか指標が幾つもあるのですよね。簡単に解説できますか。直接幸福感ではないのですけれども、県がやっている事業の中で、指標でもって目標値出してやっているのがあるので。

○廣田政策企画課主任　幸福そのものは指標にはなっていないので、例えば学びについて自分が進んで行おうと思っていますかとかという質問項目に対して、小学生、中学生とかがどう考えたかというアンケートを取ったりすることの指標です。

○吉野英岐部会長　自己肯定感の話ですね。

○廣田政策企画課主任　そうです。自己肯定感が高いとか、そういったところの指標を上げて、政策を進めていくというか。

○吉野英岐部会長　ここ悪いのだよね。

○廣田政策企画課主任　そうですね。目標値がもともと高いのです。

○吉野英岐部会長　高過ぎる。

○廣田政策企画課主任　82%、全体の８割以上を目標値としたりしているところもありますので、そういったところで、幸福感ではないのですけれども、子供の自己肯定感であったりとか、自己啓発について意識を聞いて、それに対する政策を展開していくという形はあります。

○山田佳奈委員　ありがとうございます。子供応援宣言だったかな、うたっていらっしゃるから、出てくるかもしれない。

○池田政策企画課主任主査　子育て応援の店とか、協賛店とか、そういうことではないですか。

○吉野英岐部会長　それは親の方ですよね、子育て応援だと。子供そのもの。

○山田佳奈委員　ごめんなさい、資料持ってくればよかったのですけれども、幸福の質問の調査自体は、たしか２年前ぐらいに行われていたと思います。

○吉野英岐部会長　岩手県ですか。

○山田佳奈委員　岩手県で。確か保健福祉部さんでしたか。その中に、幸せと感じているかということとクロスした結果を出していらっしゃったので、こういうのもやっていらしたのだと思っていたのです。これからもうちょっと拝見しますけれども。

○池田政策企画課主任主査　少し戻りまして、そういった情報があれば皆様の方に、多分結構前であれば公表されていると思いますので、その所在含めて御案内をさせていただきたいと思います。

○山田佳奈委員　よろしくお願いします。

○吉野英岐部会長　一応部会なので、総合計画審議会の議論も出してもいいわけですよね、

もちろん。終わればというか、関連するようなものも結構あると言えばあるのです。直接幸福感にはつながっていないけれども、やっぱり県民の意識、あるいは子供さんたちの意識について調査をして、それがどのぐらいのパーセントがあって、どういう目標値を設定していて、現状どうなのかということについて、評価の方で議論しているので、あしたやるのですけれども。終わった後は出せると思います。せっかくここにも担当者来ていますので、議論を聞いた上で、関連になりそうなものがあれば、委員の方々にも共有していただいていいのではないかなと、公表した後であれば。

それから、今の調査の件は、調査と結果は何か御存じですか。保健福祉部なのではないかという話があるのだけれども、子供の幸福感。

○和川特任准教授　子供の貧困調査ですか。２年ぐらい前に貧困調査、子供の貧困が問題になったときに、貧困に関する結構細かい調査を、幸福が入っていたかどうか、私も記憶ないのですけれども、確かにその時期に１回そういう調査をやっている。

○吉野英岐部会長　県がやっているのですね。

○和川特任准教授　県が国と一緒にやったか、県単独でやったかは覚えていないのですけれども、やったのは確かに私も記憶はしています。

○山田佳奈委員　多分それだと思います。ただ、その中の質問項目までは私もたどれていないので、詳細は分からないのですけれども。ただその結果の概要のところに、幸福、幸せと感じている人と出てきたので、すみません、あまり正確な情報ではなくて申し訳ないのですけれども。

○吉野英岐部会長　では、今のを糸口に探してみてください。

○吉野英岐部会長　何かあれば郵送なり、メールなりで先生方に共有できれば。

○若菜千穂副部会長　子どもの幸せ応援計画。

○山田佳奈委員　それです、それです。

○若菜千穂副部会長　でも、幸せは入っている。

○吉野英岐部会長　これ保健福祉部なのですか。

○池田政策企画課主任主査　子育て支援の関係で、貧困を含めて子育てのところの施策の中に入っているので。

○吉野英岐部会長　調査もやっていらっしゃるということですね、今の話だと。

○山田佳奈委員　たしかその調査を踏まえて、この計画をつくっているということだったと思います。

○吉野英岐部会長　なるほど。単発かもしれないということですか。

○山田佳奈委員　そうかもしれません。

○若菜千穂副部会長　家族と一緒に朝御飯を食べると、子供の幸福度が高いという。

○和川特任准教授　何か記憶あります。

○吉野英岐部会長　では、18 歳未満の方々の幸福ですか、最初の話は。これについて何か把握できるものがあれば。

○若菜千穂副部会長　自分が幸せだと思いますかと聞いていますね。

○吉野英岐部会長　聞いているの、子供に。

○若菜千穂副部会長　ええ。

○吉野英岐部会長　高いですか。

○若菜千穂副部会長　それと親との食事の頻度をクロスして、関連があるよという結果です。

○吉野英岐部会長　朝御飯を一緒に食べようと。

○和川特任准教授　逆の可能性もあるのではないかという話も考えられます。幸福だから朝御飯食べられているのではないかという話も実はあって。

○若菜千穂副部会長　そうですよね。

○吉野英岐部会長　食べているから幸福だというのではなくて。

○和川特任准教授　ではなくて、幸福だから一緒に食べられる。

○吉野英岐部会長　幸福な人は朝御飯も一緒に食べられると。

○吉野英岐部会長　どっちが原因かよく分からない。

子供にも聞いているのですね。

○若菜千穂副部会長　聞いていますね。

○吉野英岐部会長　分かりました。３点何ポイントとか出るわけですか、では子供も。

○若菜千穂副部会長　ポイント制ではないので。

○吉野英岐部会長　そうか、そうか。そこは違うのですね。尺度が違うから。

○若菜千穂副部会長　尺度が違います。

○吉野英岐部会長　分かりました。でも、何かありそうですので。
その他、しばらく会えませんが、こんな情報があれば欲しいよという、よろしいですか。
では、北島さんも戻られたところで、こちらとしては一応議論終わりましたので、事務局にお戻しいたします。

○北島政策企画課評価課長　長時間にわたって御議論いただき、ありがとうございます。
本日で今年度の議論は終了いたしますけれども、次年度、また年度前半集中的に議論をしていくということですので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

３　閉　会

○北島政策企画課評価課長　それでは、以上をもちまして本日の部会を終了いたします。ありがとうございました。